

## 平成 21 年度 兵庫県景気動向検討会結果について

- 1 日 時 平成 22 年 3 月 9 日 ( 火 ) 13:30 ~ 16:30
- 2 場 所 兵庫県民会館 7 階 亀の間
- 3 出席者 アドバイザリ・スタッフ：岩出 眞理 ( みなと銀行企画部調査広報室代理 )  
信貴 宏 ( 神戸女子大学文学部教授 )  
豊原 法彦 ( 関西学院大学経済学部教授 )  
成毛 建介 ( 日本銀行神戸支店営業課長 )  
武者 加苗 ( 関西社会経済研究所 ) 五十音順
- 事 務 局：企画県民部政策室長  
企画県民部政策室統計課長 外 3 名  
産業労働部政策労働局総務課 1 名

### 4 景気動向指数の改善について ( 輸出通関実績データの検討 )

【主 旨】 兵庫県では、貿易に関して輸入通関実績を一致指数として採用しているが、近年、外需の与える影響が大きくなっており、輸出動向も反映させるべきではないかとの意見もある。そこで、輸出通関実績を指数として採用することの是非について意見を伺う。

#### 【主な意見】

- ・ 輸入と輸出の実績を見る限り、輸入の方が回復も後退も早く動き、輸出はそれに遅れて動いている。関西経済は、中国を含むアジア経済の影響が非常に大きく、特に対中国は輸出よりも輸入の割合が高いので、その影響を考慮すれば輸入を採用し続ける方がよいと考える。
- ・ GDP の需要項目では、通常「輸出 - 輸入」という扱いになっており、輸入は控除項目である。よって、輸出と輸入を 1 本化し、輸出から輸入を引いた輸出入通関実績を採用する方法も一案ではないか。
- ・ 神戸港では輸出額が輸入額の約 2 倍に相当する。どちらかを選択するとすれば、金額の多い方を採用してもよいのではないか。
- ・ 原材料を仕入れて生産し成果物として還元するという生産プロセスにおいて、輸出と輸入は時間差を置いた関係にある。どちらかというとなり輸入の方が原材料の動きに近く認識しやすいという点で、輸出より先行系列的な要素が強いのではと考える。

### 5 平成 21 年の景気の現状について

- ・ 在庫循環図における循環の動きが変わってきている。通常、ものが増えすぎた在庫調整局面にある場合、在庫がなくなるまで作らずマイナスの水準になれば、また再びものを作るという循環を繰り返すが、近年においては、在庫を保ったまま生産して雇用等で調整して弾力性をもつという事態が起こっている。
- ・ 現在のところ鉱工業指数や GDP 成長率も上昇し、CI も上がっている。こうした指標を見る限り、足下の景気は回復基調にある。
- ・ 一部の企業で売上回復の兆しはあるものの、前年同期水準にまでは達しておらず、全体的に厳しい状況が続いている。

### 6 平成 22 年の経済の見通しについて

- ・ エコカー減税やエコポイント制度により、現在、乗用車や薄型テレビの販売が好調だが、これらの制度がなくなった後、消費がどうなるのか不安が残る。また、子ども手当もいつまで続くのか分からないため、手当を消費ではなく貯蓄に回した方がよいと考える人も多い。

- ・ 景気は平成22年度半ばまで緩やかな持ち直しを続け、それ以降、輸出を起点とした企業部門の好調が家計部門に波及し、全体的に上がってくるだろう。また、新興国や資源国の経済が輸出という形で上ブレ要因になる可能性がある一方、欧米のバランスシート調整圧力等が下ブレ要因になる可能性がある。
- ・ エコカー減税や家電のエコポイント、そして住宅版エコポイント、いずれもどちらかというところ川下産業でものを作るため、発展性があり波及効果のあるものだが、住宅の方は、家電のように簡単に購入できるものではないので、どれほど効果があるのか分からない。また、子ども手当については、議論はいろいろとあるだろうが、多くの家庭の懐にお金が入ってくるのは確かで、何らかの経済効果はあるだろう。
- ・ 持続性はないと思うが、現政権の財政支出が意図せざる景気刺激となって効果を発揮するのではと考える。その一方で、緩和政策をとる金融の方は、もう資金がだぶついているので、これ以上効果は期待できない。また外需に支えられて、平成22年度は、日本もよい方向に向かうのではないかと見ている。
- ・ 県下では、電池関連の投資が盛んになってきているが、成長性のある産業であり、かつ国の環境施策も引き続き行われる筈なので、今後効果が期待される。

## 7 景気動向指標における注目指標について

- ・ 鉱工業指数に最も注目している。今年に入ってから、鉱工業指数の前期比で見た伸び率が若干緩やかになり、リーマンショックによる大幅な減産の後、生産水準は8～9割のレベルにまで戻ってきているが、その戻りが鈍くなっているのが気に掛かる。
- ・ 消費者物価指数に注目している。消費者物価はD I・C Iでは遅行指数になるが、このところずっとマイナスが続いているのだが、最近ではこのマイナス幅が小さくなってきており、最悪期は過ぎたのではないかと見ている。